

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	高知県土佐市高岡町甲1684番地5		
自己評価作成日	令和 5 年 5 月 21 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、道路を隔てて水路が流れ、周辺には民家や田畑が広がる静かな環境に位置し、平屋建ての落ち着いた佇まいとなっている。
1ユニットの事業所には現在9名の利用者があり、理念に沿って、地域の中で一人ひとりゆったりと安心して生活できるよう、いたわりと優しさを重視した支援が出来るよう心掛け、自由に生活している。近隣住民とは親しく交流しており、季節の野菜や花のお裾分けもあって、利用者の平均年齢は92歳を過ぎているが、できることは自主的に行い家族、かかりつけ医師、訪問看護師の協力も得ながら安心して暮らしているよ支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3970500249-00&ServiceCd=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 7 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護をコツコツと積み重ねて何代もの人が築いた約20年、チャレンジを魂としている施設である。ここで仕事に携わった職員は、なにげなく教えられたものが、実はすごいものだったことに、ある時に「はた」と気づき、そして、さりげなく「働く」ということと照らし合わせ、傍(周りの人)を楽にしてあげる方針で、一人ひとりの心にささやかに受け継いでいこうとしている施設であった。そんな心が、真っ青な海、輝く太陽、清らかな水の360度のパノラマに囲まれた土佐の地に、長年培って活かされてきた。評価員は、早めに来過ぎたが、待っている合間の職員さんと利用者のさりげなくたわいもないおしゃべり(「もう帰るん?」「お疲れ様」「昨日ずっと一緒だったよ」「泊まりだたんよ」「そうだったかな?」)などの長閑な会話の節々を小耳にはさんだ。外では、「小さな花壇にこんなに大きなニガウリ、よくできたね。」という地域の方からの嬉しい一言を語る管理者。ちょっとしたご縁がさらに深まったこともその延長であろう。雪災害の対応も地域の助けがあったことで、地域と共に歩んできたのも間違いがない。面接時に「貴方は優しいですか?」と問うので、採用職員は心から優しい方しか採用をしていない。職員の家庭的な本質と永い変化を以って、管理者は、「サービスは継続しかない」というこだわりを全員と話し合う場を設けて、培った現在に新たな風を吹かせ、質を盛り上げている。職員だけでなく、同じように地域にも、当たり前前の如く日々の成長を促していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関には、利用者が毛筆で書いた理念が掲示されている。職員は、スタッフ会等で振り返りの話し合いを行い、日々の支援では理念に沿った利用者への接し方や話し方を心がけて、理念の実践に努めている。	理念は玄関に掲示している。前にいた利用者が筆を走らせて書いたものが貼られていた。「思いやり」「やさしさ」「その人らしさ」を追及していて、朝礼や会議の場でも振り返り浸透させている。利用者が生活しやすいように職員が環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入し、地域の一斉清掃、自主防災訓練への参加などを通して地域との交流を深めてきた。積雪の際はご近所と一緒に除雪行い、また、お庭のお花を届けてくださることもある。	冬に積雪があったが、近隣の方が除雪作業をしてくれて助かったことがあった。保育園の理事長が近隣に住んでいるので、災害時にも協力体制が築けている。近隣の方とは散歩した際に、挨拶を交わす関係ができていて、庭で咲いたアジサイを届けてくれた。野菜やお花を頂くこともある。	認知症についての理解を外部に広めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問や運営推進会議の開催等で地域住民と交流する機会を持ち、利用者、認知症高齢者への理解につなげるようにしてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では議題に基づいた話し合いや意見交換を行い、サービス向上に活かしている。また事業報告やケアの実施報告を運営推進会議メンバーや家族に送付している。	家族代表、地域の方、民生委員、市役所の方、他施設の事務員が参加していて、利用者が参加することもある。事故報告、入居者状況の確認、行事報告を行った。コロナ禍では、書面開催で郵送していたが、コロナが終焉に向っているため、対面でのリアル開催をすることができた。民生委員に書類を渡すと、丁寧に質問に受け答えしてくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や取り組みなどわからないことがあれば相談し、その都度説明や対応方法など相談助言を受けている。	運営推進会議をきっかけに、民生委員の方から意見を頂けるようになった。避難計画書を作成する際には、防災課とも連携を取ることができた。今年度から看取りを開始するにあたり、役所の方から看取り研修に必要なノウハウを指導して頂けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には研修を通じて身体拘束をしないケアを周知してきており、利用者が出来る限り自由に暮らしていけるよう支援している。夜間等の安全確保のため家族に相談してセンサーマットを設置したりカーンに鈴をつけたりして見守りと安全の工夫をしている。	身体拘束は行ってない。身体拘束委員会にて、ケアの振り返りと今後の方針について確認をしている。施設内で起きた事例を基に検討して、話し合っている。センサーマットは拘束にあたるかの確認を行ったり、スピーチロックについても取り上げている。研修はZOOMにて参加をしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待防止関連法、高齢者虐待防止の研修に参加したり、また、日々の生活の中では利用者一人ひとりの身体状況を観察し、変化があれば報告して、話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高知県社会福祉協議会主催の研修があれば参加し、受講内容を伝達して職員で共有するとともに、制度利用が必要な際には、関係機関に助言をしてもらいながら、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の読み上げを行い、不安や疑問点等について説明を行うように心がけている。また、担当者会等でも家族の思いを聞き説明を行い、理解と納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会や年に2回の家族会を設け、出来るだけ家族の意見要望を聞き、運営に反映できるように努めている。現在はコロナ禍のため、担当者会等は電話で意見交換をしている状況である。	コロナ対策をした上で、玄関先で面会を実施することができた。3ヶ月に1回開催される担当者会議や運営推進会議、面会や電話にて意見を聴取している。緊急を要する場合には、電話連絡をするようにしている。家族と利用者の両方の意見を聞いた上で、お互いの思いを尊重するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会や日々のミーティングにおいて運営に関する職員の要望や提案を聞き、運営に反映させている。代表者は個々の話し合いにも応じ意見を述べやすく現場の改善にも協力的である	職員は「みんな優しい」と管理者は自信を持って答えてくれた。「サービスは継続しないといけない」という思いから、職員間で温度差がないように、話し合いの場を設けて、意思疎通を図っている。利用者ファーストの精神で、日々の介護に従事している。内部研修を持ち回りにしたことで、さらなる学びを深めた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握し、必要に応じて育児休暇や傷病手当、労災などの手続きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修を受ける機会を設け、研修報告書の提出と発表を通して、共に学び個々の知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との情報交換を行い、交流の機会を設けてネットワーク作りに取り組むよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の要望や不安を聞き取り、改善し、解決できるよう、家族の協力を得ながら本人が安心できる生活の確保と、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会や家族会、日々の話し合いなどを通して家族が困っていること、不安や要望について話し合いながら進めていける関係づくりに努めている。また、毎月手紙で利用者の情報を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際は家族に説明し、また、家族の困っている事柄についても意見交換をしながら、ともに協力し合う関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に笑い、助け合いながら、愛情をもって家族の一員として接し、共に生活していく者同士の関係づくりを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係を大切にしながら、家族の協力を得て共に支え合える関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院、馴染みの飲食店など、家族の協力を得ながら、そのつながりが出来るだけ継続できるように努めている。気分転換を兼ねてなじみの場所へドライブに行くこともある。	朝起きたら、利用者同士が挨拶を交わしている。リビングのソファでゆったりとTVを観て過ごすことで、施設内でも馴染みが形成された。利用者にとって、職員は家族の一員であり、アットホームな雰囲気を出していた。ドライブがてら実家の近くを通ることで、昔馴染みを思い出せるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握し、トラブルが起きないように仲裁に入ったりして、利用者が孤立しないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状やお見舞いなどを続け、必要に応じてその後の現状把握に努めている。家族によっては、連絡を入れて近況を教えてくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いの聞き取りをおこない意向を確認している。聞き取り出来ない方に関しては、普段の会話や態度、家族からの情報で、一人ひとりの思いを把握するように努めている。(ケアプランアセスメントに記載)	入居時に生活歴を把握するようにしている。利用者に寄り添った介護を行っているので、日常生活で思いや意向を把握しやすい。字が書けなかった方に丁寧に一から教えたら、字が書けるようになった事例もある。得た情報は職員間で共有できるように、申し送りノートに記入したり、カンファレンスの際に伝えたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のアセスメントや、その後の聞き取りなどを参考に、サービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状況、有する力等の現状は日々の生活の中で観察し、ミーティング等で職員間で意見交換を行って共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員を決め、アセスメントを行い、3ヶ月毎の担当者会で家族からの要望や現状報告等を行い、必要なケアについての介護計画書を作成している。また利用者の状況変化があればその都度見直しをおこなっている。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ3ヶ月毎に見直している。3ヶ月に1回の担当者会議(コロナ禍なので電話)にて、家族の意見を聴取しているのでプランに反映させやすい。管理者がケアマネジャー兼務なので、職員からの意見も聞き取りやすい。モニタリングは、3ヶ月に1回実施し、本人や家族、職員の意見を集約し、次に向けて課題を克服できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録、申し送りノート、医療ノート等に記録し、ミーティングで情報共有して、ケアの統一化を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、要望を聞き、できる範囲で既存のサービス以外の通院受診、手続き等の代行を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問や他の施設のイベントへの参加などを通して、利用者が豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に往診対応により主治医を決めている。協力医の往診利用者は7名で、外来受診も家族の依頼があれば職員が同行していたが、コロナ禍のため現在は家族の同意を得て職員が同行している。情報提供や受診結果等は医療ノートを利用し、情報を共有している。	かかりつけ医は、往診か受診かを選んで頂いているがほとんどの方が往診を選ばれている。他科へは、施設の協力医へ連れて行くことが多い。歯科へは、必要に応じて受診するようにしている。全体の医療ノートに受診記録を書き、個人の医療ノートには症状を記入することで、全体で共有できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護及び協力病院等の看護師に現況を説明し、報告、相談をしながら適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者のアセスメントやその後の聞き取りなどを参考に、サービス利用の経過等の把握に努めている。状況等を関係機関と情報共有し、安心して治療が受けれるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期の在り方については現在までご家族の同意のうえで入院という形で対応させて頂いていた。当施設での看取りについては医療、訪問看護、事業所、関係者とともに話合った結果看取りを実施することになった	入居時に重度化した際の取り決めを行っていて、入院を希望する方が多かった。今年度より看取りを開始した。看取りを行うにあたり、役場の方と連携することができた。施設内で研修を行い、「看取り介護の指針」の見直しも行った。週1回来られる訪問看護やドクターの意見も聴取している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	簡単なマニュアル作成とともに、ミーティングや職員会を通して初期対応などの実践に活かせるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の防災訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導を受けながら実施している。近隣住民の訓練参加はないが、平日頃から気にかけて、有事には声かけをしてくれている。水、食料等の非常用物資は3日分を保管し、適切に期限管理している	冬に積雪があったが、近隣の方が除雪作業をしてくれて助かったことがある。保育園の理事長が近隣に住んでいるので、災害時にも協力体制が築け、避難計画書作成時にも防災課とも連携して完成することができた。備蓄は、賞味期限を把握できるようにメモを貼り付けることで、定期的に入れ替えができるように工夫している。	災害対策について今一度見直してみてもいいがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は全員女性で、言葉かけにも注意し、排泄や更衣や処置等も居室で行い、利用者のプライバシーに配慮した介護を心がけている	呼称は、家族の了承を得た上で、本人が希望する名前で呼んでいる。職員会の資料に記載する際は、イニシャルで書くようにしている。定期的に県の主催する接遇研修にも参加している。入室時には、声を掛けながら入るようにしている。排泄失敗時には、「大丈夫よ～」と優しく言葉を掛けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に関しては、可能な限り自主決定ができるよう、家族にも相談しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者側に立ったケアを目指し、ミーティングで話し合い、方向性を決めて取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得ながら、その人らしい身なりやおしゃれが出来るように支援している。訪問美容師に来ていただき散髪してもらうこともできる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望を取り入れ、調理師免許を持つ職員2人が献立し、その日の早出遅出の職員が調理している。利用者個々の食事の状態に合わせて、食事の形態等を臨機応変に変えることもある。利用者も、できる範囲のことを職員と一緒にしている	食事は3食手作りで、職員が買い出しの際には、コストも考えて食材を準備している。調理師免許を持つ職員が3名いて、愛情のこもった料理が提供され、栄養管理もできているおかげか、残食はほぼゼロ。利用者のペースに合わせて、できるだけ見守りの姿勢をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表を作成し、状況を見ながら個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアや見守りを行い、必要な利用者には歯科訪問で口腔ケアを依頼し、清潔保持を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントや日常生活の中で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけおむつを使用しないよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレは各居室に備えられている。現在は全員がトイレで排泄できるようになった。コロナ禍でオムツになった方がいて、職員で話し合った結果、日中はトイレ誘導を繰り返したら、ADL機能が維持され、睡眠の質も向上した。排泄失敗時には、大きい声を出さずに「大丈夫よ～」と優しく言葉を掛けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量、形態にも注意しながら、毎日の体操、散歩、歩行訓練などを行い、また、医師にも相談しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い利用者は平均週2、3回入浴しているが、回数や時間帯も状態に応じて利用者、家族の希望に応じている。入浴拒否者には、聞き方にも注意しながら無理強いすることなく、日にちを変更する等の工夫で入浴につなげている。	入浴回数も利用者に応じて回数が違うので、利用者に寄り添った介護となっている。入浴を拒否される方には、決して無理強いすることなく、聞き方にも注意するように工夫している。冬場は、ヒートショック対応としてヒーターも完備している。季節湯として、菖蒲湯やゆず湯も提供し、気分を変えるために入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を重視しながら、その時の状況に応じて休憩を促したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々の状況を医師に相談し、その指示の下で薬のセットを行い、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが喜びを見い出せる日々を過ごせるよう、全員が女性であり、個々の力を活かせる役割や嗜好を見つけ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に応じて無理のない範囲で、希望や体調、その日の天候も見ながら散歩の支援をしているが、一年を通じて猛暑、厳冬の時期には控えている。コロナ禍では家族との外出支援は中止となっていた。	近所の河川敷に満開の桜を見に行った。宇佐地区のしおかぜ公園にドライブへ出掛け、春野方面へアジサイを見に行った。柿の木を眺めるために、玄関先にベンチを置いてあるのありがたい。散歩コースに近隣の神社があり、お参りすることで、元気を頂いている。玄関先に小さな花壇に、野菜を栽培したことで、水やりや鑑賞が楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望でお金を所持し、使用に関しては職員が買い物の代行をしたりご家族にお願いするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方に自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はワンフロアに集約され、手狭な感じだが、使い勝手が良いように家具等の配置も工夫され、居心地よく過ごせるようになっている。壁一面の季節感のある飾りつけも、職員が毎月交代で作成し、利用者の目を楽しませている。	リビングでは、ソファに座ってTVを観たり、おしゃべりを楽しんだりして過ごしていた。毎朝の日課としてラジオ体操を継続している。壁面は四季折々の作品があり、7月には七夕の貼り絵や短冊が飾られていて、利用者の願いが込められていた。事務所からもリビングが見えるので、作業中でも安心して見守りの体制が築けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、利用者が自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅で使い慣れた家具、自作の絵画や工作物家族の写真やお手紙等が飾られ、利用者の個性が窺え、居心地よい空間となっている	ベッド、トイレ、洗面台、クローゼット、エアコン、カーテンが備え付けられ、利用者が作った数多くの作品や上手に描かれた絵画が居室を盛り上げていた。自分が好きな方のポスターを掲示したり、お経を読んだりすることで、自分らしい居室となっていた。新聞を読んだり、家族とTV電話を楽しんだりして過ごしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「出来る事」「分かる事」を活かして、時々職員が見守りをしながら、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない